

授業における図書館活用

千葉県立柏高等学校

1. 学校の紹介

今年で創立43年を迎える千葉県立柏高等学校は、普通科21学級と理数科3学級、生徒数975名で、その教育方針に「1. 健全有為な民主的社会人を育成する。2. 健康な人格の完成を目指す。3. 学力の充実発展をはかる。4. 強靱な体力を養成する。」を掲げ、地域と交流を深めながら、その責任と信頼を担った伝統校を目指している。卒業生のほとんどが大学進学希望であり、本校では、生徒一人ひとりが自分の将来にしっかりと向き合えるよう様々な取組を行っている。

普通教室・図書館・セミナーハウスには冷房が完備され、快適な環境で学習することができる。数学演習ではゼミ形式の授業を取り入れ、少人数のグループに分かれ主体的・能動的な学習が育つように考えられている。

平成16年からの5年間、文部科学省のSSH（スーパーサイエンスハイスクール）の研究指定を受け、平成23年度からは再び5年間の指定を受けた本校は、課題研究・ゼミ形式授業等を継続実施しながら、理数教育を推進し、海外研修・発表会等を内外に向けて行っている。国際性の滋養のために、アメリカ合衆国ウィスコンシン州のコンコルディア大学での研修も実施している。

本校図書館は 特別棟4階の一番奥に位置し、眺めも良く落ち着いた場所にあるが、生徒のいる普通棟からのアクセスが悪く、利用に便利とは言い難い場所である。図書館の目標は「図書館機能の充実と利用の促進」である。立地条件を考えて昇降口に図書館コーナーを作るなど生徒が来館してくれるような様々な工夫をしている。始業前から放課後まで学習の場所として図書館を利用している生徒は多いが、最近では部活動と勉強との忙しい生活に追われているのか、読書に費やす時間が減少気味になっており、本校図書館にも読書離れの風が吹き始めたような感がある。しかし、生徒の知的好奇心は高く、授業での本の紹介や、新聞やニュースで取り上げられた本やテーマでの資料検索の依頼が数多く、関係の貸し出しも多い。図書館担当としては、常にそれらの情報収集にも心がけ、図書館が利用者の信頼できる情報センターとしての役割を果たせるように取り組んでいる。

【過去5年間の貸し出し冊数の推移】

年度	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	技術	産業	芸術	言語	文学	その他	合計
2007	110	386	334	603	726	373	56	657	280	2420	425	6370
2008	103	250	470	496	697	353	53	465	116	2432	541	5976
2009	50	169	308	418	666	213	52	610	174	1958	392	5010
2010	68	174	259	383	671	261	50	433	143	2153	504	5099
2011	86	152	248	283	543	244	53	462	117	1910	518	4616

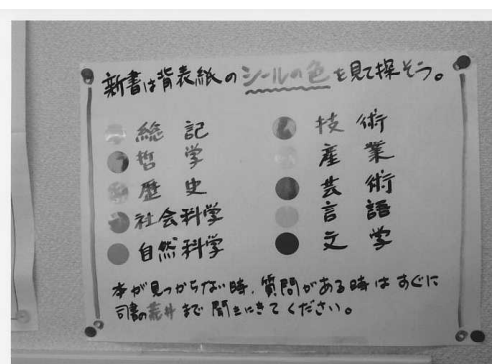
2. 読書活動に関する取組

(1) 図書部・図書委員会が実施している取組

図書部では図書館を高校生活の3年間フルに活用し、また進学、社会に出てからも常に自分の学習のサポートの場として活用ができるよう図書委員会とともに、以下の取組を行っている。

a 日常の取組

- ・新入生に対してのオリエンテーションの実施
- ・国語担当の協力による新書を読ませる指導（総合学習と連携）
- ・『図書館だより』の発行と新刊ポスターの制作
- ・広報活動としてポスターなどを校内3カ所に掲示
- ・館内ディスプレイの工夫（新書の表示方法など）
- ・各種コーナーの設置（進路・SSH・季節など）



b 学校行事へのサポート

- ・修学旅行・・・毎年11月に実施、近年は沖縄が行き先になっている。2年生は総合学習の時間を利用して、各自沖縄に関するテーマを選びそれについての新聞を作る課題がある。図書館では時期に合わせて不足している資料を県立図書館に貸出を依頼して100冊余を設置したコーナーに展示、貸出を行っている。
- ・『柏葉探究セミナー』・・・20名余の本校卒業生が来校し、進路についての講演をしていただく総合学習の時間に合わせ実施、卒業生に関する書籍等を紹介している。

(2) 教科授業へのサポート

- a 「家庭科」の授業サポート・・・2年生2学期と3学期に全クラスで次の2テーマの授業が図書館を利用して実施される。

①お弁当総合実習 「私のお弁当案」

私のお弁当案というテーマで班ごとに各自の弁当献立から班の代表献立を決め、それを実際に調理し、発表会を行い評価する。決められたルールに基づいて献立を作る。この単元は、図書館で用意した弁当関係の資料を参考に図書館で班ごとのメニュー決めを行う。資料は本校蔵書のほか雑誌なども参考にできるようにして準備。インターネットも用意して様々に探せるようにしている。

日頃の家での生活なども見えてなかなか面白い。チームワークが結果に反映する。

ワークシートと 献立の写真

平成24年度 お弁当総合実習 「私のお弁当案」

1. お弁当の条件

①主食3：主菜1：副菜3のバランスで主食以外の3品を作る。ご飯は炊いた物を持たず。
②容器の大きさは、700ml前後とし、1人分だけ盛りつけて発表会用に提出する。

主菜	主菜
副菜	副菜

③調理法（揚げ物は禁止）・味付け・色どり・栄養のバランス（4割すべて野菜）を考へる。
④一人分300円以内に抑え、30分以内で献立を立てる。1時間で作成し、2時間目に発表会と試食をする。（時間厳守）
⑤野菜は、100g以上盛り、そのうち緑黄色野菜は1/3以上。
⑥学校にある調味料以外は各組で用意する。
砂糖・しょうゆ・塩・酢・油・酒・みりん・片栗粉・ごま油・はんだし・白ワイン・赤ワイン・こしょう
⑦バター・マヨネーズ・小麦粉・味噌はないので、各自で用意する事。
⑧外物・（カレー・シチュー）・パンは×とする。

2. メニュー一覧

3. お弁当のピーアルポイント

4. お弁当の盛りつけ図

5. 参考資料

2年7組 手作りお弁当実習2012
人気ベスト3

1位

献立 肉巻き
カボチャの炒め煮
明太ポテト
卵焼き
ズチトマト&りんご

4班 周岡 佐々木
田村 中島



1位

献立 豚納肉
エビチリ
青菜の卵焼き中華風
チャーハン

6班 小林 杉本
富澤 萩原



3位

献立 焼き鮭
しめじのサラダ
筑前煮
卵焼き
ズチトマト&フロッキー

9班 石田 黒沢
駒崎 松尾



② 「人の一生をディベートで考えよう」

対立する二つの立場に分かれてルールに従い意見を主張し合い、どちらが優れているかを競う討論会であるディベートの授業では、各テーマに関する資料を各50冊程度を目安に自校蔵書や県立図書館・近隣高校からお借りして準備する。事前に担当教諭と相談、テーマの確認、資料をそろえる時期やインターネットの準備、パスファインダーの制作などを行っている。全クラスで行うので貸し出しできないことや、外部から借りた資料の紛失に対する対策も考慮しなければならない。自校図書館の資料と混在してしまうため区別できるよう工夫している。テーマは毎年同じとは限らないので、事前の打ち合わせの後の資料探しは大変である。

今年は「結婚のメリット・デメリット」、「食品の廃棄・利便性・節電の面からコンビニは必要か」、「男性の育児休業は少子化対策に有効か」、「施設介護と在宅介護」のいずれかの4テーマで実施された。

班ごとチームに分かれそれぞれの主張に沿った資料を探し、自分たちの立論の裏付

けを集めていくのだが、いろいろ具体的な質問も多く、生徒との対応も面白い。まさに自分の人生を考えさせられるような展開もある。

◎図書館での資料作成とディベートの様子



◎作ったレジュメ

では、他の介護方法の一つ「施設介護」について考えてみよう。

☆施設介護☆

- 施設介護のメリット●
施設介護のメリットは大きく4つある。

1. 介護専門スタッフによる24時間体制の介護を受けられる
2. 栄養士によるバランスの良い食事が取れる
3. 家族の肉体的、精神的疲労が大幅に軽減
4. 施設ごとの様々なイベントにより他人と広くふれあえる

●施設数の推移● (高齢者100人への推移)

	施設数	定員	在り看数
昭和60年	97	8490	6773
平成15年	694	56837	42661
平成22年	4144	195972	161625

右のグラフより男女施設数と入居数は増加傾向にあり、具体的には施設数は16.2%、定員は6.9%増加している。高齢化による高齢者増加にも対応してきているのではないだろうか？例の有料老人ホーム以外でも増加傾向にある。

●施設の種類●
「施設」といって有料老人ホームのイメージが強いが他種でも入居することのできるケアハウスをはじめ、高齢者住宅、グループハウス、グループホームなどがある。

4結論

上記のことから在宅介護の必要性は**ない!!**
より良い介護を受けられ、介護する側の負担も減るので施設介護も一つの介護の方法として必要である。

4組 E班 松下、土屋、鈴木、菊池、加納

☆問題点1：少人数でこれだけの量の介護が可能？

また、仕事と介護との両立がストレス（4人に1人鬱症状）このストレスで追い込まれると……虐待または殺人まで

☆問題点2：互いの精神的疲労が有りて本当に幸せ？

グラフ1からわかるように加害者は**男性**が多く被害者は**女性**が多い。心中してしまふケースも少なくなく、**精神面の負担**の大きさが見て取れる。

グラフ2からわかるように加害者は**男性**が多く被害者は**女性**が多い。心中してしまふケースも少なくなく、**精神面の負担**の大きさが見て取れる。

b 「保健」の授業サポート・・・1年生、2年生で調べ学習を実施。

① 1年・・・「現代社会と健康」の単元

各自興味を持ったテーマを調べて所定の用紙10枚にして提出、図書館では資料の準備と図書館資料の扱い（レポートへの記載の仕方）や著作権などの説明を授業最初に行う。後日発表、お互いに評価をし合う。

② 2年・・・「期末試験問題を作ろう」～自分の作った問題が期末試験に出るかもしれない～

試験範囲の中からグループごとに担当箇所を決め、自分の担当以外の章で、はてな？と思う箇所のリストを作成し、担当班がその解答を作成。疑問点を図書館で調べる。

単元は「環境衛生活動の仕組みと働き」「食品衛生活動のしくみと働き」「食品と環境の保健と私たち」「食品と環境の保健のために」

2年・・目指せ！！池上彰 ～「池上彰の学べるニュース」をまねてみよう～

5人1組で1つの題材を選択、生徒のグループが池上彰役と出演者役となり、そのやりとりから題材についての知識を深めていく。台本を作成、10枚以上フリップを作成、見やすく説明。図書館では事前に打ち合わせた資料を用意する。

題材は「そうだったのか、高齢者社会」「そうだったのか、日本の保健行政」「そうだったのか、介護保険」「そうだったのか、日本の医療制度と医療費」「そうだったのか、日本の医療機関と医療サービス」「そうだったのか、日本の年金」の6つ。

なかなか難しい資料集めだった。これも貸出しは禁止にしている。

*** 配布資料と発表の様子**



目指せ！！池上彰

～「池上彰の学べるニュース」をまねてみよう～

そうだったのか、高齢化社会（6章、7章） そうだったのか、日本の保健行政（8章）
 そうだったのか、介護保険（7章） そうだったのか、日本の医療制度と医療費（9章）
 そうだったのか、日本の医療機関と医療サービス（10章）
 そうだったのか、日本の年金

概要

- ・5人1組で1つの題材を選択する。題材は上記の6つから選択。
- ・本時を含めて3時間で準備し、2時間で8グループが発表する。
- ・1人は池上彰役、他の4人は出演者役（つるの剛士、土田晃之、前田ひとりなど）となる。池上彰と出演者のやり取りから、題材についての知識を深めていく。
- ・すべての台本を作り、台本に沿って進める。（本書は台本を見ながら進めてもよい。）場当たり的にやるのではなく、出演者の質問事項や答えは決めておく。
- ・本書は10～12分でまとめる。
- ・最低でも1人に1回は台詞を与える。
- ・池上彰役は「いい質問ですねえ、〇〇さん」と2回以上は言う。
- ・模造紙を4分の1に切り分けて、フリップ代わりにする。10枚以上は必ず使用し、上履はなし。ペンやイラストを利用し、見やすく作る。
- ・池上彰役だけが調べては、時間が足りないし不平等。グループ全員で協力で行う。
- ・図書館に、関連する書籍を集めたので、学習の場は教室でも図書館でもどちらでもよい。

評価は以下の観点で行う。

- ・ストーリー性（筋立てた構成であるか、池上彰と出演者の受け答えを通した自然な流れになっているか）
- ・説得力（論理的な説明がされているか、分かりやすい説明であったか）
- ・フリップの工夫（10枚以上使用しているか、分かりやすく見やすいものが使われているか、班全員で協力して作成したことが伝わってくるか）
- ・時間（10分～12分で終了したか）
- ・声の大きさ、話す速さ（全員に聞こえるような声量であったか、話す速度は適切であったか）

※調べる際にインターネットは使用してよいが、ウィキペディアは使用しないこと

2月15日	3時間目	2年1組	2月18日	1時間目	2年7組
2月20日	2時間目	2年8組	2月20日	4時間目	2年7組
2月26日	1時間目	2年1組	2月27日	2時間目	2年8組

(3) SSHに関するサポート

本校理数科は1年次に「ラボⅠ」、Ⅱ年次に「ラボⅡ」、Ⅲ年次に「ラボⅢ」という授業があり、1年は物化生地全部を、2年では各自テーマを決めて、3年次は2年次での研究を継続するものだけ実施という形式の授業がある。決めるテーマは専門的なものが多く、テーマが決まった段階で図書館の方に連絡があり、それから準備に取りかかることになる。研究の参考資料はまず図書館の蔵書の確認、公共図書館の所蔵確認などを行う。大学研究者の研究紀要まで及ぶこともあり、県立図書館相互協力のお世話になっている面も大きい。これらの研究は内外にも発表の場があり、賞をいただくこともあるので、参考資料の用意など生徒は図書館への期待も大きい。

図書館では、生徒に引用の仕方、研究紀要のサイトの調べ方など指導する。図書館でパソコンを使用して調べることも多い。ちょっと手に入りにくい資料などが手元に届いた時の生徒の笑顔は何とも言えない。

* 研究テーマの一覧と研究の様子



2年生 課題研究I 2012年度 テーマ一覧			
物理分野 (重原)	ジェイロ効果	理数科	◎沼野一明 新井靖正 金福優人 茂森耕一郎
	気圧による放電の違い	理数科	◎立山大朗 大友広真 城所健太 田澤亮介
	内部の自動制御装置による 屋外飛行の達成	理数科	◎藤和希 大木有 佐々木友宏
(木村)	発電効率の向上	普通科	◎中島和樹 草野大志 玉谷義樹
	衝撃の吸収	普通科	◎大野拓哉 鈴木和彦 中村杜志 高山大治
化学分野 (中藤)	ペニンシオン抽出法の効率化と 効力向上	理数科	◎林祐介 笹倉秀幸 山口輝人 山崎友輔
	カーボンナノチューブの金属 触媒による変化	理数科	◎中村真人 三好裕樹
	金属類	普通科	◎高倉諒 渡邊敏樹
生物分野 (相馬)	手賀沼の魚とプランクトンの 関係性	理数科	◎荒川真紀 大留賢人 草野晶生 高橋水生
	枯菌の生態	理数科	◎小林拓人 菊池啓生 吉野晃生
	天然酵母パン	理数科	◎秋本愛 岡田華奈 高橋美沙紀 高橋倫子
	拍子周辺の放射能 事故後1 年以降の変化と植物の吸収量	普通科	◎有坂英穂 植野実結 江角春佳 村越美旺
地学分野 (大塚)	宮都近郊 地震による津波の 被害予想	理数科	◎新倉寿希 田中拓実 森川幸太 日暮南己
	身近なものの断熱効果	理数科	◎細谷拓哉 吉賀理人 長谷川友優 榎本明彩未
数学分野 (唐杉)	定理の証明や作図の時に用い られる「反転」という方法	理数科	◎小田和輝 大童清貴 佐々木誠 藤澤瑞基
また、3年理数科の以下の3チームがラボⅡの研究を続行します。			
化学分野 (山見)	二酸化チタンによる有機物の分解	◎石川大貴 山本葵	
生物分野 (山田)	ヤマトヒメミズノ再生現象	◎丸田晴也 本橋晃大 森重寛	
	生育環境によるメダカの異常行動	◎近藤隼人 大塚研之 齊藤貴久 白水慶士	

3. 成果と今後の課題

本校図書館は「利用者のための図書館」を前提に生徒の活発な読書活用に支援し、自主的な学習活動を援助するとともに、教職員の創造的な教育活動を充実させるためによりよい図書館の構築を目標にしてきた。生徒に読書の楽しみを知ってもらうために発行している『図書館だより』や新刊ポスターはその反応も良く、必ず探しに来てくれる生徒や、家庭に持ち帰り家族で話題にしなが借りに来てくれる生徒もいて、新聞を作っている委員会の担当者にも気合いが入る結果となっている。来館者や貸し出しも多く、季節ごとのディスプレイや配架の工夫はやりがいのあるものになっていると思う。

授業での活用は毎年定番になっているものや、新しく始めた教科などそれぞれで、資料集めやレポートの指導など図書館でのきめの細やかなサポートが大きな援助になっていると思われる。SSHとリンクした図書館の活用では様々な資料の提供が生徒の信頼を得ているのは確かである。いつでも図書館に専門の司書がいるということはその基盤である。

様々な機会でも図書館に来館することが日常の読書にも影響する。授業利用が有るクラスでは個人の貸出しも増え、リピーターになってきている。立地条件の悪く狭い図書館の我が校では図書館を知ることでの利用価値が見つかっていくという現実があり、今後いかに図書館が継続して利用したい場所だと思ってもらえるかが課題といえる。必要に応じた資料の収集と専門の職員がいる環境で、授業や行事等でもっと図書館が活用され認識度が上がれば、自校の読書センター・情報センター・学習センターになっていくだろう。

今回報告するに当たり、自校図書館が生徒・職員に取ってどんなふうに使われているかを考えてみた。卒業や転勤してみても母校を振り返り、何となくではあったが、どこか頼もしい存在に感じていただけたらうれしい限りである。(文責：司書 荒井 孝子)

年度	総記	哲学	歴史	社会 科学	自然 科学	技術	産業	芸術	言語	文学	その 他	合計
2007	110	386	334	603	726	373	56	657	280	2420	425	6370
2008	103	250	470	496	697	353	53	465	116	2432	541	5976
2009	50	169	308	418	666	213	52	610	174	1958	392	5010
2010	68	174	259	383	671	261	50	433	143	2153	504	5099
2011	86	152	248	283	543	244	53	462	117	1910	518	4616